

郷土資料館だより

Vol.33 No. 3
2011. 3. 31

三島市制施行70周年記念企画展「写真でふり返る三島の70年」

●会場 郷土資料館1階展示室 ●会期 平成23年4月17日(日)～平成23年5月29日(日)

今年三島市制施行からちょうど70年を迎えます。昭和16年(1941)4月29日、三島町と錦田村は合併し、人口約34,000人の三島市が誕生しました。前年の昭和15年には紀元2600年を記念して自治体の合併が進められたこともあり、静岡県下6番目、全国では180番目の市制施行となりました。他にも愛媛県西条市や大分県佐伯市がこの日に誕生しています。

今回の企画展では、三島市制施行から70年の歩みを写真で振り返ります。

◆70年のおもな出来事

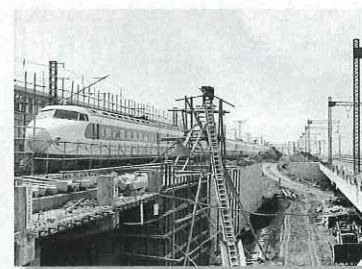
年号	西暦	記 事
昭和16	1941	4月29日、錦田村と三島町が合併し、三島市誕生(人口33,533人)
昭和22	1947	6・3制教育が始まり、新制中学が設置される
昭和24	1949	国立遺伝学研究所が三島に開設
昭和29	1954	4月1日、中郷村と三島市が合併
昭和32	1957	パサディナ市と姉妹都市提携
昭和33	1958	9月26日、狩野川台風
昭和35	1960	市役所庁舎の完成
昭和37	1962	国道1号線三島バイパス開通
昭和39	1964	石油コンビナート反対決議。東海道新幹線開通(三島駅は未設置)
昭和40	1965	住居表示による町名変更。浄水場完成
昭和43	1968	国道136号線(下田バイパス)開通
昭和44	1969	新幹線三島駅開業、東名高速道路開通
昭和45	1970	「市の木(イチヨウ)」「市の花(ミシマザクラ)」制定
昭和49	1974	5月9日「伊豆半島沖地震」マグニチュード6.9(三島の震度は4) 7月7日「七夕豪雨」
昭和52	1977	三島市民体育館が完成
平成2	1990	9月16日、秋雨前線による集中豪雨で大場川が氾濫
平成3	1991	4月三島市民文化会館がオープン。ニュープリマス市との姉妹都市提携 静岡県総合健康センターがオープン
平成9	1997	生涯学習センター、総合防災センター、三島聖苑が完成。FMみしまかなみが開局 麗水市と友好都市提携
平成12	2000	三島市役所がISO14001を取得
平成13	2001	市の鳥「カワセミ」に制定される 街中がせせらぎ事業開始
平成17	2005	4月1日、本町タワービルがオープン



昭和29年
中郷村と三島市合併
(合併記念式典)



昭和39年
石油コンビナート反対運動
(市民大会)



昭和44年
新幹線三島駅開業
(三島駅建設工事中)

企画展「収蔵品展 後期 楽寿園」報告

- 開催期間 平成22年9月18(土)～平成22年12月5日(日)
- 入館者数 17,343人 ●資料点数 27点

今回の企画展は、来年の開館40周年を目前に、現在までの収蔵品を公開することを目的として開催しました。前期が「三島宿と箱根西坂」(7/3～8/29)、後期が「楽寿園」と題し、収蔵品を中心に構成しました。

後期の「楽寿園」ですが、普段一般に公開する機会の少ない市指定文化財「梅御殿杉戸絵」を中心に、楽寿園関係資料を展示紹介しました。楽寿園に関係した企画展としては平成19年度に開催しましたが、今回はその際に未詳となっていた湯川松堂や草野龍雲といった杉戸絵の画家についての詳細が調査により判明しました。また、今回初公開となった楽寿園の所蔵する天袋・地袋絵(襖絵)についても草野龍雲によるものであることが判明しました。さらに、小松宮彰仁親王から直接拝領したとされる「小浜池図」も今回展示することができました。

楽寿園は三島市民にとっても大切な憩いの場です。この楽寿園に伝わる文化財も市民にとっての大切なお宝ですので、今後も機会を見つけて展示公開していきたいと思えます。



富士自慢

報告

- 開催期間 平成22年12月19(日)～平成23年2月27日(日)
- 主催 富士・沼津・三島三市博物館連絡協議会
- 入館者数 7,667人 ●資料点数 64点

14回目となる今回の3市博物館共同企画展は、富士山をテーマに開催しました。今回は、富士・沼津・三島の3市それぞれのまちから見える富士の姿や富士山をテーマにした作品を、3館が収蔵する資料を中心に「自慢」し合いました。

三島では農兵節浴衣や下田舜堂「朝焼けの富士」、滝の本連水「雲霧集」などを中心に、おなじみ歌川広重の浮世絵や昭和初期の古写真、三四呂人形などを紹介しました。また、3市共通テーマとして「いにしへの風景」と題し、各市の所蔵する古写真の中に見える富士山も展示紹介しました。ちょうど会期中に「富士山の日」と重なったこともあり、たくさんの方々にご来館いただきました。



ふるさと講座「富士山伝説の地をめぐる」報告

- 開催日時 平成22年11月19日(金) 9:00~17:00 ●参加者数 24人
- 講師 富士市観光ボランティアガイドの会、富士市立博物館学芸員
- 見学地 富士塚、山部赤人歌碑、左富士、竹採公園、富士市立博物館、村山浅間神社

今回のふるさと講座は富士・沼津・三島3市博物館共同企画展「わがまちからの富士山」にあわせて開講しました。当日は好天に恵まれ、一日中雄大な富士山を眺めながら見学地を回りました。

富士山の信仰や伝説にまつわる場所としては田子の浦近くの富士塚、富士宮市の村山浅間神社、富士市内の竹採公園を見学しました。富士塚は富士山に登る修験者が身を清め、海岸の石を一つずつ置いて安全を祈願した場所といわれていますが、現在は富士山の形に固められた塚になっています。そして、その修験者たちの拠点となったのが富士宮市にある村山浅間神社でした。

その他、富士市から見える雄大な富士山の眺望と関係する場所として山部赤人の歌碑と左富士が見えた地点を見学し、富士市立博物館では共同企画展「わがまちからの富士山」を見学しました。時間の都合上、左富士はバスの中からの見学となりました。

はじめの4カ所は富士市観光ボランティアガイドの3名の方に、後半の2カ所は富士市立博物館の学芸員に解説していただきましたが、地元の方ならではの詳しい解説に、参加者からはそれぞれの場所のいわれなどが強く印象に残った、との声が寄せられました。



富士塚を見学する参加者

富士山の日
記念事業

郷土教室「カルタでわかる 富士山と三島」報告

- 開催日時 平成23年2月23日(水) 9:00~12:00 ●参加者数 小学1~5年生6人
- 講師 相原 淳氏(元静岡県地学会副会長)
- 会場 市民文化会館梅御殿、郷土資料館会議室

富士山の火山活動や富士山と三島の関係について、カルタやパズル、顕微鏡を使って楽しみながら学びました。はじめに梅御殿で環境カルタ(三島の自然編)を楽しみながら、源兵衛川や湧水、富士山の眺めなどの札が出るたびに三島と富士山との関係について説明しました。次に、相原先生より地学の重要な理論であるプレートテクトニクスの説明にパズルを使うなど、富士山の火山活動についてわかりやすく説明していただきました。

この後、楽寿園内の縄状溶岩やお餅のように膨らんだ溶岩などを見学しながら郷土資料館まで移動しました。資料館では、薄く削った溶岩を偏光顕微鏡で観察し、溶岩に含まれる鉱物が様々な色に見える様子を観察しました。

参加者には1・2年生もいましたが、カルタやパズル、顕微鏡観察などで楽しみながら学ぶことができたようです。とくに、溶岩の顕微鏡観察は鉱物がとてもきれいに見えたことから、みんなとても感動していました。また、上級生のなかには富士山の噴火の歴史などを詳しく知っている参加者もあり、先生に熱心に質問したりメモをとったりしていました。



環境カルタに親しむ様子

郷土資料館改築事業進捗状況報告 vol.3

郷土資料館では現在、新たな博物館施設の建設事業に取り組んでいます。昨年の夏から進めてきた設計作業もいよいよ大詰めとなりました。今号では、その内容と今後の事業展開についてお知らせします。



常設展示室入口付近イメージ



体験学習ゾーンイメージ

新館の施設概要

- ◆ 規 模
建築面積705㎡、延床面積1,570㎡
- ◆ 構 造
鉄筋コンクリート造3階建て
- ◆ フロア構成
 - 3階 **まなびと探究の広場**
常設展示室、企画展示室
 - 2階 **ふれあいと憩いの広場**
エントランス、体験学習ゾーン、多目的ホール、事務室
 - 1階 収蔵庫、資料整理室、郷土学習室ほか
- ◆ 事業スケジュール
 - 23年度 事業計画のブラッシュアップ
 - 24年度 建設工事
 - 25年度 建設工事、開館

これまで、基本構想の策定から基本設計・実施設計と事業を進めてきました。当初の予定では来年度より工事に着工する運びとなっていました。ここで一年の間を置くことになりました。

郷土資料館は「まちの総合博物館」として生まれ変わります。これまで以上に市民の皆様知る喜びを発信し、多くの方々にいつまでも愛される憩いの場所でありたいと願っています。

そのため、私たちが描いたイメージをより多くの市民の皆様にお伝えし、それに対するご意見やご提案をお伺いしながら、一緒に新しい博物館施設の可能性や在り方を探り、開館後の運営方針や活動内容を考えていきたいと思ったからです。平成23年度は、現在の事業計画をブラッシュアップすることに力を注いでいきます。

その一環として、まず、ボランティアの養成に取り組みます。新鮮な魅力ある施設運営には、マンパワーが必要不可欠だと考えるからです。そしてさらには、様々な団体や施設、商店街や事業所の皆様との交流を図り、この施設のオープンをきっかけに、三島のまちにさらなる賑わいと潤いがもたらされるよう、ネットワークづくりに取り組んでいきたいと考えています。



伊豆半島ジオパーク構想と郷土資料館改築事業

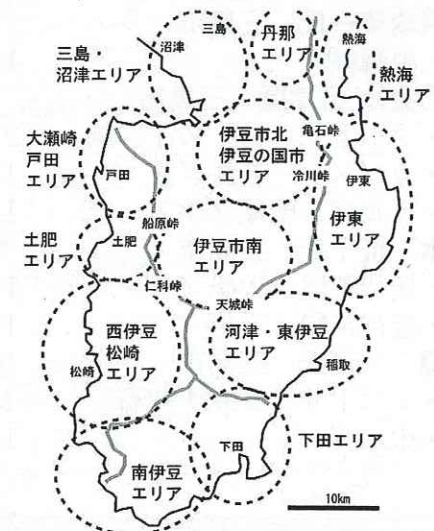
伊豆半島に位置する自治体では、現在、「伊豆半島ジオパーク構想」が推進されています。これは川勝平太静岡県知事が伊豆の観光振興策として提唱したもので、「ジオ」とは「大地」、「パーク」は「公園」を意味しますから、まさに「大地の公園」ということになります。具体的には地域の成り立ちがわかるような地形や地層、岩石、鉱物などの地質遺産を中心に、歴史、民俗、産業など大地に根ざした人々の営みに関わる資産も含み、それらを保全・活用することにより経済活動を高揚し、地域振興を推進していくという仕組みを持つ自然公園のことです。世界では2010年時点で25ヶ国77地域が「世界ジオパーク」の認定を受けており、日本では14地域が「日本ジオパーク」の認定を受け、さらにこの内の4ヶ所が世界ジオパークに認定されています。まだ2004年に始まったばかりの新しい枠組みであるため地域的偏りが著しく、発祥の地であるヨーロッパや国策として取り組んでいる中国に多い状況となっています。ユネスコが主導する「世界遺産」と混同しそうですが、世界遺産が保護を目的とするのに対し、ジオパークは保全だけでなく活用と地域振興を目的としている点が大きな違いです。県の文化・観光部観光政策課と伊豆半島の6市6町がこの枠組みに取り組んでおり、平成22年度は伊豆半島ジオパーク推進協議会の設立とシンポジウムや地域研究会の開催など普及啓発、『ジオパーク指針書』の作成が静岡大学防災総合センターの小山先生により実施されました。平成23年度にはジオパーク構想の策定、ジオガイドの育成、ジオサイトの整備、広報PRなどが予定されており、そして平成24年度に日本ジオパークネットワークへの加盟、平成27年に世界ジオパークネットワークへの加盟が計画されています。『ジオパーク指針書』によれば、伊豆半島を分水嶺により12の地域に分け（ジオエリア）、おのおののエリア内で見どころとなる場所（ジオサイト）が選定されています。ちなみに三島のジオサイトは「三島－溶岩流と湧水、火山神をまつる神社－」として、楽寿園や三島駅周辺の溶岩流と湧水及び三嶋大社、「箱根南西麓－火砕流台地と景観、土地利用－」として箱根火山の噴火による火砕流の地層、佐野付近の水蒸気爆発を起こして出来た二次的な火口の跡の2ヶ所が候補地となっています。

一方、郷土資料館改築事業では、豊岡新市長より「伊豆半島ジオパーク構想」を踏まえた設計が指示されており、今後、市民の皆様のご意見をいただく中で検討していく予定です。

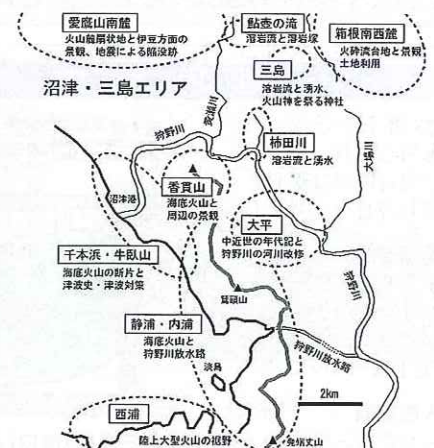


小溶岩洞窟（楽寿園内） 写真提供：相原 淳氏

『伊豆半島ジオパーク構想指針書』 (小山真人(静岡大学)編)より



※伊豆半島を12地区に区分するエリアの試案



※沼津・三島エリアのジオサイト候補地とその見どころ

刊行物近刊のお知らせ

『三島宿関係史料集5』「済口証文之写（嘉永三戌年五街道宿々御取調二付左之通り書上ル）」

天明5年から天保12年までの三島宿と助郷村々における「済口証文之写」及び「御請証文之写」9点が綴られています。これらの文書は、三島宿の人馬継立業務の特異性を示すとともに、宿と助郷村々の係争を窺い知ることができる近世交通史の貴重な史料です。

『花島家文書目録』

花島兵右衛門の事業資料を中心に、伊豆箱根鉄道や伊豆銀行など明治期の三島の様子が分かる資料群目録です。

『三島市郷土資料館研究報告4』

【所収予定】

- ・「享保17年卷子暦」に関する覚書 (鈴木隆幸)
- ・箱根山中にある施設としての接待茶屋の特徴について (平林研治)
- ・『島めぐりの日記』(写本) 解題と翻刻 (田中之博)
- ・薔花女学校とキリスト教-1880年代の地方女子教育- (桜井祥行)



花島兵右衛門

寄贈資料紹介

平成22年12月から平成23年3月にかけて次の方々よりご寄贈の協力をいただきました。ありがとうございました。

河原崎英一氏 三島市

- ・製麺機 1点

株式会社 石津屋 三島市

- ・ブルドッグソース注ぎ瓶 2点
- ・カゴメソース注ぎ瓶 1点
- ・カルピス朝顔グラス 1点

鈴木 征子氏 三島市

- ・接待茶屋 大釜 1点
- ・接待茶屋 看板 1点

相原 淳氏 三島市

- ・レピドサイクリナ化石 1点
- ・火山弾 1点



火山弾



ブルドッグソース注ぎ瓶
カルピス朝顔グラス



箱根接待茶屋 大釜

編集後記 春到来を目の前に、ニュージーランド南部、中国雲南省に続き、日本でも東北地方太平洋沖地震が発生しました。被災地の方々には心からお見舞い申し上げます。(T.S)

利用案内

●休館日

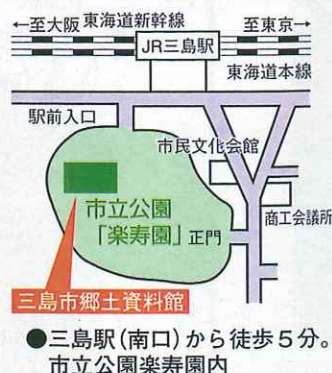
毎週月曜日
(祝日の祭は翌日)
12月27日～1月2日

●開館時間

午前9時～午後5時
(4/1～10/31)
午前9時～午後4時30分
(11/1～3/31)

●入館無料

(ただし、楽寿園入園の際に有料)



郷土資料館だより Vol.33 No.3 (第99号)

発行日 平成23年(2011)3月31日
(年3回)

編集 三島市郷土資料館
〒411-0036
静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内
TEL 055-971-8228
FAX 055-981-3730

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
URL: http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/
発行 三島市教育委員会